

Workday 社の分析機能があなたの次期昇進をRecommendする フィル・ウェインライト(2014 年 11 月 4 日)

概要:

Workday 社は、本日サンフランシスコで開催された Workday Rising 年次会議において、キャリアについてRecommendし、退職予備軍を特定するマシン分析を発表した。

Workday 社は、本日サンフランシスコで開催された Workday Rising 年次会議で、財務管理アプリと人材管理アプリの次期リリースに向けて予定されている多数の新機能、特にスマート分析機能を使って特定の選択肢を積極的にRecommendする Insight Application を発表して顧客を驚かせた。

新しい分析ツールは、単にデータを報告したり視覚化したりするのではなく、データ・サイエンスと機械知能を適用して、特定のビジネス・シナリオに対する予測的な洞察とRecommendを生成する。それらは、個別のデータ・ウェアハウジングを必要とすることなく、Workday 社の人材管理アプリ及び財務管理アプリ内で実行され、モバイル機能を取り込んでいくことになるだろう。当面は、人材管理向けで 3 つ、財務管理向けで 3 つのアプリが予定されている。

- ・ **慰留リスク**—組織で最高の業績を挙げている従業員のうち、退職するリスクが最も高い従業員を分析し、彼らに慰留してもらえる可能性が最も高いアクションをRecommendする
- ・ **キャリア・パスのRecommend**—候補者を、その人に最適となる昇進にマッチさせる
- ・ **労働力スコア・カード**—主要な指標に沿うよう労働実績の改善に向けてRecommendする
- ・ **従業員経費の逸脱行為**—旅費方針と接待費方針の乱用を積極的に特定する
- ・ **顧客の収集**—支払い遅延または債務不履行しそうな顧客を特定し、損失を最小限に抑えるためのアクションをRecommendする
- ・ **財務スコア・カード**—主要な指標に沿うよう財務実績の改善に向けてRecommendする

データ分類エンジン

新しい分析ツールは、[今年の Identified 社の買収](#)によって得た技術をベースに構築されている。このデータ・サイエンスの新興企業は、SYMAN と呼ばれるデータ分類エンジンを構築することで、管理職専門人材斡旋ツールの開発に着手した。本日の基調講演において、共同創設者で、現在は Workday 社の技術戦略担当副社長アディエミ・アジャオは次のように説明した。

「エンジニアリングの観点から、分析を正しく行うには、3つの異なる問題 — データを取得すること、データを分類すること、適切なアルゴリズムを適用すること — を解決する必要があります。」

データ分類こそ、間違いなく問題の鍵を構成しているのです」

例えば、看護職に従事するためのモデルの構築を目指し、チームは10億件のヘルスケア求人プロフィールを分析し、"看護師"の役割に対して何100もの異なる職位を見出した。

「私は登録看護師である、と言った場合、600通りの正しい言い方があります。私は3ヶ月間かけて、チームと一緒に1つ1つのプロフィールを調べました」

この作業の結果が、SYMAN内に構築されたヘルスケア業界の定義ツリーであり、それによって、各600項を約17の異なる役割に自動的に分類できるようになった。だから、レコメンドするために、この分類を使用して検索を実行したり、分析を実行することができるのだ。

モバイル UI の更新

アジャオは本日、チームが今やヘルスケアだけでなく、テクノロジーと教育のための完全な業界ツリーを完成させ、更に、消費者向けパッケージ商品、金融サービス、政府、ヘルスケアを含む17の業界でも業界ツリーを完成させたことを明らかにした。その結果、遺留リスク対応アプリとキャリア・パスのレコメンド対応アプリの基礎が形成される。例えば、有望な候補者のプロフィール情報とマッチした他の新入社員が、どのように実績を出したかという会社独自の履歴の分析に基づいて、求人レコメンドを提供できる。

現在及び将来のバージョンに向けて、聞き手を喜ばせた本日発表の他の追加事項は、次のとおりである。

- ・ Apple の iOS 8 アップデート版に"フラット"デザインを追加した、今年2回目の更新となる新しいモバイル・インターフェース。iOS デバイス用プレビューがすぐに利用可能であり、デフォルトとして公開される前に、顧客は新しいデザインに慣れるまでに数ヶ月の猶予が与えられる
- ・ 新しいスクロール組織図、ダッシュボード、通知を含むデスクトップ UI(新しいモバイル・インターフェースにも実装されている)の改善
- ・ 完全モバイルな経費報告書の作成処理と提出処理
- ・ 専門サービスのオートメーション市場を対象とした完全なプロジェクト管理機能
- ・ 在庫管理

私の見解

今年の Workday Rising は、サンフランシスコのモスコーン・センターの北ウィングと南ウィングの両方を占有するほど大きく成長したので、お祝いの花火が必要だったし、新世代の予測分析とモバイル UI の更新の組み合わせは首尾よく行きそうに思える。

Workday 社は、ここ数年、アプリに分析機能を組み込んできたし、最近になってビッグ・データ機能も追加したが、一連の新しい技術はこのゲームを大きく進歩させる。テクノロジー製品担当副社長ダン・ベックは、履歴分析のみに基づいてビジネスを導くことは、紙の地図を使い、車の中にいながらにしてルート探索するのと同じだ、と示唆した。今では、予想外

の交通渋滞を回避するのに役立つ、ネット接続されたルート検索ツールを私たちは日常的に使用しているのだから、ビジネス上の意思決定を検索するのだって、同じロジックを適用すべきなのだ。

もちろん、アルゴリズムは信頼できるものでなければならないし、誰かのキャリアを計画することは、新しいレストランへの道順を見つけることよりも少しミッション・クリティカルではある。しかし、機械知能の進歩 — その多くが Netflix、LinkedIn、Facebook(いずれも、Identified 社のデータ・サイエンティストの多くが以前働いていた)といった消費者向けインターネットの巨人たちが手掛けている研究によって推進されている — は今や、ビジネス・アプリ分野における機械知能の新しい波を煽りつつある。

Workday 社は本日の発表で、特に HANA プラットフォーム上で実行される機械知能ツールも推進し始めている SAP 社に対して課題を投げかけた。Infor 社も、製品開発の重要な分野としてデータ・サイエンスを強調している。明らかに、企業向けアプリ・ベンダーの間で繰り広げられる機能バトルの中に、新たな最先端領域が広がりつつある。